

# 同窓会便り

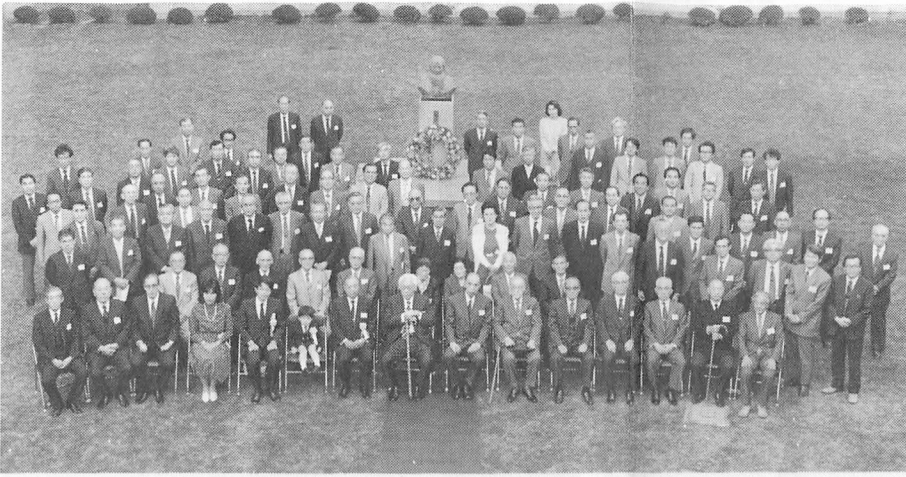
発行  
東北大学 電気・通信・  
電子・情報同窓会  
仙台市荒巻字青葉  
TEL 222-1800  
発行責任者  
緒方研二  
(題字 緒方研二氏)

## 八木秀次先生

### 御生誕百年祭開催される

佐藤 利三郎

東北大学の電気工学科の創立者であり、広く世界のエレクトロニクス創立者でもある八木秀次先生は明治十九年(一八八六年)の御生誕であります。昭和六十一年一月二十八日が御生誕百年となります。



八木秀次先生御生誕百年祭 S61.5.24  
東北大学工学部 電気情報館 八木秀次先生御生誕百年祭

から参集された方々は百名を越え、ホテル仙台プラザのロビーで受付を済まし、久しぶりの再会のかたらいなど、和やかな雰囲気にお包まれました。

午後二時バスに乘車して、青葉山の東北大学工学部電気・情報館に向かい、同館講義棟中庭にある八木秀次先生の胸像前に整列しました。百年祭の第一行事としての献花式です。八木秀次先生の御曾孫

八木敦人君による献花が行われ、ついで百年祭世話人代表永井健三先生にあわせ参列者一同拝礼を致しました。このあと八木先生の胸像を中心にして記念写真撮影致しました。

無事献花式を終了し、若葉に薫る青葉山キャンパスを眺めながらホテル仙台プラザに戻り、午後三時三十分より「けやきの間」で八木秀次先生御生誕百年祭の式典が挙行されました。百年祭世話人代表永井先生の御挨拶に引き続き、八木先生御生誕百年祭の歴史を振り返る経過報告を含んでの閉式の辞を長谷慎一世話人代理として司会の佐藤が述べ、式典を滞りなく終了しました。

第三の行事は座談会です。

我が国の弱電関連(エレクトロニクス)の研究教育活動の端緒は、六十年前の東北大学工学部電気工学科に見ることが出来ます。当時八木秀次、坂山平一両先生を中心とする教授陣が、弱電・指向の共同研究体制をとり、独自の研究活動を開始され輝かしい成果が挙げられました。これに對し齋藤報恩会より巨額の研究費補助が与えられ、研究活動は更に活発となり、その後における我が国のエレクトロニクス発展のルーツとなりました。八木先生御生誕百年祭にふさわしいテーマ「東北大学工学部電気工学科創設当時並びに齋藤報恩会から研究費補助を受けた当時のエレクトロニクス研究の歩み」で座談会(午後四時から約一時間半)にわたって行なわれ、参列者にも大の感銘を与えました。

引続き記念祝賀会となり、参加者の方々のテーブルスピーチが古い昔の思い出となって、人々を感懐させ、八木先生の歩まれた百年が東北大学の電気系の発展の歴史に深くかかわりを持つと共に、広く全世界のエレクトロニクス発展の根源となつていくことに一層の感謝と誇りをもち、百年祭に出席し得た喜びに参列者一同浸った一日でした。

(1) エレクトロニクス(発展の歩み)の会  
副題 八木秀次先生御生誕百年記念  
八木先生の御生誕百年記念として表記の会が昭和六十一年一月二十日東京霞ヶ関ビルで実施しました。東北大

新同窓会名簿発行  
新名簿(一九八五年)が発刊されました。従来の五十音別ならびに職場別索引に加え、新たに都道府県別索引を設けました。多数の方方の御購入・御利用を御願ひします。一部三、五〇〇円(送料共)。上記同窓会宛お申込み下さい。

電気通信学会功績賞  
昭和十七年三月三十一日  
東京工業大学学長  
同 十九年十二月五日  
技術院総裁  
同 二十年一月二十五日  
勲一等瑞章授与  
同 二十一年二月二日  
大阪帝国大学総長  
同 二十四年一月二十日  
日本学術会議委員  
同 二十六年十月十七日  
日本学士院会員  
同 二十六年十一月九日  
藍綬褒章授与  
同 二十六年十一月十四日  
大阪大学名誉教授  
同 二十七年一月二十九日  
八木アンテナ株式会社  
社取締役社長  
同 二十八日五月二日  
参議院議員  
同 三十年五月七日  
武蔵工業大学学長  
同 三十一年十一月三日  
文化勲章授与  
同 三十三年十一月二十三日  
同 三十五年五月二十七日  
同 三十五年五月二十七日  
八木アンテナ株式会社

長谷慎一さんをおんで  
藤木 栄  
町のレストランで開かれましたが、長谷さんはその会長として挨拶され、また総会の議長を務められ、引続いて行なわれた懇話会でもお元気を杯を片手に談笑されました。少し前に白内症の手術をされたが、まだはつきりとは物が見えないと言っておられましたが、以前

大久保謙先輩を偲んで  
西澤 潤一  
三月二十六日の大久保先輩の御急逝を伝えるものでした。つい先日、八木先生御生誕百年をきかけと、日本に通信工学が導入されて急速に世界の先頭に出た、そして、世界に魅けて電子工学の発展の端緒となつた、この電話は思はず聞き返す程、予想もしなかつ

から少し悪かった足を除いては健康に見えましたので、三日後にお亡くなりになられたと伺った時は全く信じられなない思いであり、また長い間色々とお世話になった私としては、言葉に表わせないショックでありました。

あまり知られていないと思いますが、長谷さんは終戦直後の昭和二十三年初頭から二年三月の間、短波帯の国際周波数リストを作成するためのITUの委員に出席し、我が国を代表して電波監理局長等を経て電波監理局長に就任された方です。その間、電波監理局長として、電波監理の発展に多大の貢献をなされた方です。その間、電波監理局長として、電波監理の発展に多大の貢献をなされた方です。

社顧問  
昭和三十七年五月四日  
テレビジョンシンポジウム(スイス国開催)表彰  
同 四十二年四月二十九日  
銀杯一組賜る  
同 四十九年一月十六日  
東北大学名誉教授  
同 五十二年一月十九日  
逝去  
同 五十二年一月三十日  
勲一等旭日大綬章授与  
同 六十二年一月二十八日  
生誕百年  
同 六十二年五月二十四日  
生誕百年祭

### 情報工学科実験研究棟 新築(62年11月完成予定)

木村 正行  
新築予定の建物は、鉄筋四階建、延べ一四三四㎡(鉄骨構造渡り廊下を含む)で、現在の研究棟の西側に建設される。新棟には教育研究用電子計算機(M360)、演習用パソコン(八十台)、画像処理装置、ワークステーション等が設置される。

南立面図

### 総会開催される

去る十月十一日、本同窓会本部総会が、東京支部総会を兼ねて東京神田の学生会館で開催されました。審議事項は次のとおりです。

一、昭和六十年度事業報告並びに会計報告  
二、昭和六十一年度事業計画案並びに予算案  
三、昭和六十一年度事業並びに会計中間報告  
四、次期本部役員選出案

五、その他  
なお次期の本部役員(幹事)は、次のように決まりました。  
総務幹事 村上孝二(電26)  
庶務幹事 高木 相(電通修32)  
会計幹事 米山 務(通34)

今回の総会は、昭和六十一年十月二十四日(出)、東京神田学生会館で開催される予定です。

機器部長・常務を経て昭和三十九年社長に御就任、戦後の立ち上り期を指導され、特に逸風くモトクトロと名付けたICの生産に着目されたことは忘れられないことです。

長期に亘って役職を続けるべきではないとの信念を自ら貫かれ昭和四十五年会長、同五十年相模と成り、今日に至られました。その間積極果敢、通信次いで電子と電機会社の転換拡大の最も困難な部分を指導され、同社の活性化に隔段の成果を挙げられ、今でもよく同社をめぐりの方々のお話の中に出て参ります。同時に大変情熱に厚く、筋を通す方であり、本同窓会のためにも格別なお力を注いでいただきました。

青葉記念館建設の時を思い浮べていたただけでよくお分りいただけのことです。募金に中心的役割を果たされたのは勿論、着工式にもお出掛けになり御入れをやって下さいましたが、遂に完成を見ていただくことは出来ませんでした。

### 支部便り

#### 東京支部

支部長 富田弘平  
支部長 富田弘平  
昨昭和六十一年十月十一日開かれた六十一年度支部総会が、東京支部総会を兼ねて開催されました。報告として支部分に代えさせていただきます。

六十一年度支部総会に引き続き、東京支部総会を兼ねて開催されました。報告として支部分に代えさせていただきます。

六十一年度支部総会に引き続き、東京支部総会を兼ねて開催されました。報告として支部分に代えさせていただきます。

(次頁へつづく)



